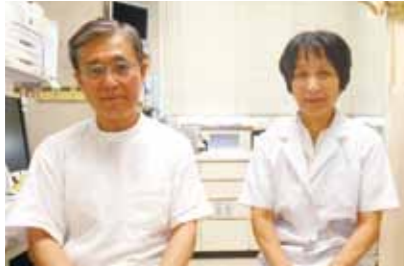


# 連携医院のご紹介

今回は「傾聴する医療」を大切にしておられます  
山本内科循環器科 山本正治先生です。



山本院長と副院長

## 山本内科循環器科

〒733-0871  
広島市西区高須1-5-23  
電話 / 082-274-4050  
FAX / 082-274-0265  
院長 / 山本 正治  
診療科目 / 循環器科・胃腸科・呼吸器科・放射線科・内科



### ○いつ開業されましたか。

平成元年11月に県立広島病院を退職後、元々住んでいた地域で開業し、今年で25年になりました。医院はバリアフリーにしており、車でこられる患者さんが多いため駐車場を広くとっています。また、診察は副院長と二人で行っています。

### ○診療で大切にしていることは何ですか。

何と云っても、患者さんとの対話ですね。病気の経過をしっかりと聞き、正確な診断を行い、病気の説明を丁寧にすることが大切です。私が全ての病気を診ることはできないので、自分の能力と守備範囲をしっかりと認識して、患者さんを次につなげるようにしています。患者さんの話をこまかく聞いておくと、事前に重症となる兆候を見つけることができます。以前、のどが痛いと言われた患者さんが急性心筋梗塞だったこともありました。

### ○開業医のおもしろさは何ですか。

患者さんを継続的に見ているので、重篤になる前に病気が発見できた時はとてもうれしいですし、患者さんか

らも大変感謝されます。勤務医時代と違って、患者さんとの距離が近いので、家族の事でも気軽に相談を受けることがあります。家族を含めてみていることで、患者さんのバックグラウンドがよくわかって、往診に出ていることもあり、患者さんとの関係がとて近くなります。

### ○県病院に一言。

いつも頼りにしています。時間外に患者さんを紹介して、いつもご迷惑をおかけしています。御治療いただいた患者さんも喜んでおられます。



山本内科循環器科外観

### 【取材後記】

地域で開業医として活躍される一方で、医学生や後輩の指導もされており後輩の育成に対して熱心な先生でした。「学生に教える限りは、自分でもそれを実践していく。」と言われたお言葉が一番心に残りました。

# もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページに掲載しています。  
県立広島病院 で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)

理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

## バージニア・メイソン病院に『カイゼン』研修に行きました



バージニア・メイソン病院本館



病院内の廊下の壁には毎週月曜日の朝に各部署からの『カイゼン』の成果が掲示され、病院トップも討論に参加するそうです。

8月3日から4泊6日の日程で米国ワシントン州シアトルにあるバージニア・メイソン病院に当院から4名（医師1名、看護師2名、事務職1名）の視察団を派遣しました。

バージニア・メイソン病院は、2000年までは色々な問題を抱えており、改革の必要性に迫られていました。そこで病院の理事長は改革の手法にトヨタ生産方式を導入することとし、主なスタッフを日本のトヨタに派遣しました。病院の改革になぜ自動車業界で研修？と思いますが、実はトヨタ生産方式の“顧客中心、徹底的な無駄の削除、あくなき『カイゼン』、現場主義”を医療に導入したのです。現在では全米でも医療の質が高い病院として評価されています。

数年前からこのバージニア・メイソン方式を日本でも取り入れようと福岡県の麻生飯塚病院を中心に研修に参加する病院が増え、今回の研修にも日本から6病院が参加しました。この方式の目指すところは、とにかく“患者中心”の視点から医療現場におけるムダを徹底的に削除し、常に『カイゼン』を推

し進め、結果的に医療者が患者さんとかかわる時間を増やすことにより医療の質を上げようというものです。医療事情は日米で異なりますが、バージニア・メイソン方式に学ぶべき点は多くあり、当院でもさらなる医療の質向上を目指して『カイゼン』に取り組んでいきます。



Dr. Henry Otero と記念撮影

ヘンリー・オテロ先生は、今回の研修のコーディネーターで、もともとは抗がん剤治療の専門家だったそうです。現在はこの『カイゼン』活動を専従にしているチームのリーダーです。

## 県立広島病院からのお知らせ

### がん医療従事者研修会

開催日 平成26年 10月16日(木)  
時間 18:30~20:00  
場所 中央棟2階 講堂  
テーマ 「がん専門医よろず相談所」  
~相談内容から医療者へのフィードバック~  
講師 がん専門医よろず相談所相談医  
児玉 哲郎 (栃木県立がんセンター 名誉所長)  
対象 医療従事者 及び その関係者  
問合せ先 総務課管理係 (担当:永岡)  
TEL:082-254-1818  
内線 (4273)

### 緩和ケア看護師研修(実践コース)

開催日 平成26年 11月11日(火)・12日(水)の2日間  
時間 9:00~16:30  
場所 新東棟2階 総合研修室  
対象 次の①②③のいずれか④の要件を満たす者  
①平成16年度から平成18年度の緩和支援ナース育成研修(入門コース)の修了者  
②平成19年度から平成24年度の緩和ケア看護師研修(初級コース)の修了者  
③平成25・26年度緩和ケア看護師研修(基礎コース)の修了者  
④全課程(2日間)を全て出席できる者  
定員 40名  
申込期間 10月7日(火)~21日(火)必着  
参加費 5,000円(資料代)  
問合せ先 緩和ケア支援室 TEL:082-252-6262 (直通)  
※詳細はホームページでご覧下さい。http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/igan-net/muki-shien03.html

### 患者さんのためのリンパ浮腫 予防の主役はあなたです!!

開催日 平成26年 11月16日(日)  
時間 10:00~13:00 (9:30開場) 無料  
場所 中央棟2階 講堂

「広島リンパ浮腫研究会」は、四肢リンパ浮腫に関する啓発活動の一環として、リンパ浮腫でお悩みの方を対象に、四肢リンパ浮腫の発症と重症化予防に関する第9回目の講習会を行うことといたしました。一人で悩まずぜひお越しください。今後のリンパ浮腫のケアに生かしていただければと思います。

対象 どなたでもご参加頂けます  
問合せ先 たかの橋中央病院 TEL 082-242-1515  
広島リンパ浮腫研究会

### 紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費の他2,690円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ち下さい。

※当院では、予約診療を優先して診察しています。予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなる場合がありますので、ご了承下さい。

## KBネット

現在の参加医療機関 (9月19日現在)

184 機関

問合せ先 地域連携センター  
電話(082)252-6228(直通)



# 私のこだわり 其の四

栄養管理科 天野 純子

みなさん、こんにちは！  
今回は、管理栄養士の職と食に対するこだわりを紹介します。

県病院の管理栄養士たちは皆、やる気満々でチームワーク抜群です！



## 美味しい病院食へのこだわり

「栄養治療効果を得るためには食事を患者さんに食べていただかなければ意味がない。」ことから美味しい食事をいろいろと考えてきました。「焼きたてパン」と「挽きたてコーヒー」は美味しい病院食へのこだわりの一つです。「焼きたてパン」は、毎朝、焼きたての美味しいパンを食べていただくと考えて始めました。この「焼きたてパン」に使用しているクロワッサンやデニッシュなどのパンは、上質の小麦粉など材料にこだわった40年以上の歴史のあるスイスメーカーのパンで、世界トップクラスの五つ星ホテルでも採用されており、毎朝厨房で焼き上げています。「挽きたてコーヒー」は、食後に香り高いコーヒーを飲んでいただきたいという思いで10年前からの構想を実現させたものです。香りを楽しんでいただけるように毎朝、豆を挽くことにこだわりました。味も豆の割合を数g単位で微妙に調整したいいわゆる「県病院ブレンド」のコーヒーなのです。



こだわりのパンとコーヒー

## 食事は大切な治療です

患者さんは病院に入院すると、1日3食、病院で食事をします。ここで栄養状態が悪いと病気の治りや、手術後の回復が遅くなります。治療が順調に進み、早く元気になるためには、最新の治療とともに

に患者さんの栄養状態を良好に保つことが必要です。私たちは、日々患者さんの状態に適した食事を考えています。この食事は「治療食」と言い、レストランのランチとは少し違います。患者さんの今の栄養状態は？どのような栄養の食事が合うか？美味しく食べていただけるのか？食べ物が喉に通やすいか？ちゃんと吸収されているか？こんなことを考えた食事を毎食500食ずつ提供しています。

## 栄養治療へのこだわり

例えば、糖尿病の患者さんに対しては、運動量に応じた、適正なカロリーや脂肪量および食塩量を調整した栄養バランスのとれた食事を提供します。最新の臨床栄養学に基づいた治療法を献立にし、料理に反映させることが栄養治療です。その食事内容を「栄養食事指導」という形で患者さんやご家族に説明するのも私たちの仕事です。また、栄養改善が特に重要となる患者さんには「栄養サポートチーム(NST)」が担当医とともに治療に参加します。管理栄養士はチームの一員として治療に関わり、患者さんに適した栄養管理や食事について日々提案しています。



栄養食事指導の様子

## 私たちのモットー

私たち管理栄養士のモットーは、外科・臨床栄養学の重鎮、小越章平先生の『万病に効く薬はないが、栄養は万病に効く』という言葉です。食事と栄養管理はあらゆる治療の土台です。糖尿病・腎臓病・消化器病・術後管理・治療に伴う食欲不振等に対して私たちは「栄養のプロフェッショナル」として、毎日患者さんの治療をサポートします。みなさんの治療効果が上がり美味しく食事ができるように全力でサポートしますので、これからもよろしくお願いたします！

## 病棟編

### 看護部だより

#### 南5病棟

南5病棟は主に消化器疾患に対する手術療法\*を受ける患者さんが入院される病棟です。患者さんやご家族の方お一人お一人に安全なケアを提供できるよう受け持ち看護師を中心に、病気や手術に対する不安・手術後の生活に対する不安や苦痛の緩和について、緩和ケア認定看護師、がん性疼痛認定看護師、摂食・嚥下障害認定看護師とともに、チームで取り組んでいます。1日も早く回復し安心して退院していただけるよう、入院時より栄養サポートチーム、地域連携センタースタッフ、WOC認定看護師(人工肛門に対する専門家)、緩和ケアチームとも連携し、個々の患者さんのニーズにあった情報提供と看護に努めています。患者さんやご家族の方のニーズにすぐに対応すること、笑顔を決やさない明るい病棟作りを心がけています。

\*南5病棟に入院される患者さんの手術療法とは、食道、胃、大腸、肝臓、膵臓などの高度な技術を必要とする手術、腹腔鏡手術などの低侵襲手術、腹部救急疾患や腹部外傷の手術などです。



南5病棟スタッフ

# 外科医の独り言 no.37

## 医療はサービス業？

以前患者さんに手術の説明をしていた時のことです。通常それぞれの病気に対して“標準的な”治療方法などを示したガイドラインというものがあ、それに沿って説明をします。病状から考えて標準的な手術はこの方法です、と説明した時、患者さんから「標準よりもっと良い手術をしてください、松竹梅の松をお願いします」と言われました。まあ確かに“標準”と言えばもっと上があるはずなのでもっともな話です。私の説明不足でした。医学的に“標準治療”というのは現在行われている治療の中でもっとも有効であると科学的に証明された治療、ということの説明を患者さんに納得してもらいました。

さて、手術を受ける患者さんに「あなたの病気に対してできる手術は3種類あって、それぞれお値段に違いがありますがどれにされますか？」なんて説明する外科医はいません。それこそ先ほどの松竹梅です。また、手術を受けて無事に退院される患者さんに「ありがとうございました、またのお越しをお待ちしております」とお辞儀ですると「ふざけるな、また入院しろと言うのか」って怒られてしまいます。したがって医療はホテルなどと違ってサービス業ではなく、医療は医療だという信念を持ってこれまで30年間外科医を続けてきました。しかし、冷静に考えてみると、正しく診断して、適切な時期に適切な治療を行うのが医療の原則であり、これはあくまで“患者中心”に行われるべきであり、その本質は“お客様中心”のサービス業となんの違いがあるのでしょうか？私も良くわからなくなっています。ただうわべだけサービス業を見習って患者さんに“様”を付けて呼ぶのは本末転倒では

ないかと思っています。

一方で、診療の待ち時間、駐車場の混雑など県病院にはサービス業を見習って『カイゼン』すべき点が多々あります。外来診療の待ち時間ひとつをとってもその要因は様々であり、それを一つ一つ『カイゼン』していかなければ解決できません。ということで院長命令が下りました。すべての業務を“患者中心”という観点から見直して医療の質が向上し、結果的に医療収益が赤字から黒字に、劇的な変換を遂げた病院の視察に行ってみよう。8月3日から4泊6日でアメリカワシントン州シアトルにあるバージニア・メイソン病院に行ってきました。この病院の改革は、とにかく今まで医療者側中心に物事の判断基準があったものをすべて“患者中心”とし、とにかくムダを徹底的に除き『カイゼン』を行ったようです。その際に参考にしたのが、日本の誇るべき大企業、“トヨタ生産方式”です。だったら、わざわざアメリカまで行かなくても最初からトヨタに見学に行けば良いのでは、と思いつつも、しぶしぶ行って参りました。(今回の『もみじ68号』トップページを参照下さい)

ちなみに、先ほどインターネットのあるサイトで、70項目の質問に答えて転職のための適性診断してみました。結果は、もっとも良い転職先はなんと接客・サービス業と出ました。やっぱり医療はサービス業なのかもしれない。



院長補佐(消化器・乳腺・移植外科主任部長)板本敏行(いたもととしゆき)

## 緩和ケアチーム

「緩和ケアについて話を聞いてみたい」「緩和ケアを受けたい」と思った時は、担当医や看護師にご相談ください。

緩和ケアは「がんの進行した患者さんを対象にした医療」や「緩和ケア病棟で受ける医療」と誤解されがちです。そのため「まだ緩和ケアを受ける時期ではない」と思い込んでいる人も少なくありません。緩和ケアは病気の時期に関係なく、がんが診断された時から手術・放射線・抗がん剤などの治療と並行して行う治療や看護のことです。『緩和ケアチーム』とは、患者さんやご家族の抱える身体や気持ちのつらさに対処し、生活を支えるための専門家のチームで、医師、看護師、薬剤師、心理療法士、メディカルソーシャルワーカーのメンバーにより、病気と向き合う患者さんやご家族を支えています。

### 次のような相談を受けています

- 痛み・嘔気・食欲低下・呼吸困難・倦怠感・浮腫など身体の症状
- 不眠や不安・落ち込みなど気持ちのつらさへの精神的なサポート
- 治療や療養場所など大切な選択に関するサポート
- 仕事や経済的な心配について
- 介護保険など自宅で利用できる社会制度について
- ご家族の気持ちのつらさなどのサポート、接し方など



私たちがサポートいたします!!